

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ベネッセ三鷹大沢台保育園
施設所在地	東京都三鷹市大沢2-2-52
法人名	(株) ベネッセスタイルケア

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂の探求（5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
園庭にはダイナミックに砂遊びができる砂場があり、晴れている日の砂と雨上がりの砂の性質の違いに興味をもって

2. 活動スケジュール

- ①乾いた砂と濡れた砂の感触の違いや硬さの違いを知る
- ②白砂と黒砂を山を作りながら探る
- ③山を作りながら、山づくりに調度良い水分量を探る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材・道具】白砂、黒砂、シャベル、バケツ、ジョーロ等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

乾いた砂と水を含んだ砂の固さの違いを山を作りながら水分量を調整したり、砂の種類によつての性質の違いを探究した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水を加えることで固くなること、水の量を調整することで固さにも変化があることに気が付いていた。子どもたちは、砂場の隅に自分たちで「水場」を設けました。。そこは、理想の山を作るための「材料工場」のような場所になりました。

「あっち（水道）まで行くのは大変だから、ここに池を作ろう」と、砂場の一角を掘り、水を運び込みました。単に砂を濡らすだけでなく、砂場の中に「水場」という新たな拠点を設けていました。

「水が多すぎるとドロドロで崩れちゃう」「少しずつ足して混ぜると、カチカチに固まるよ」と、バケツの中で水と砂を混ぜ合わせ、手応えを確かめながら「最適な水分量」を追求していました。

水場で生成した「よく固まる砂」を山へと運び、丁寧に塗り固めていく姿がありました。また、白砂（さらさら）と「黒砂（重い）の性質の違いも踏まえ、水場で作る砂のベースを黒砂にするなど、これまでの発見を組み合わせる姿がありました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分たちが必要な場所（水場）を作り、目的のために素材を「加工・調整」する姿に、深い当事者性と科学的な思考が凝縮されていました。

既存の砂場を使うだけでなく、自分たちで使いやすいように「水場」を設けて環境をカスタマイズする姿は、まさに「自分事として自分たちで創る」という参画の姿勢そのものでした。

「どれくらい水を入れるか」という加減を、繰り返し試行錯誤する中で体得していました。この「ちょうどいい塩梅」を探るプロセスは、将来の科学的探求や数学的な量の感覚にも繋がる重要な経験です。

1度崩れても「水が足りなかったかな?」「黒い砂に変えてみよう」と、原因を推測し、すぐに次の手立てを試すレジリエンスが育っています。保育者は、子どもたちがこの「試行錯誤のプロセス」を存分に楽しめるよう、時間と空間を保障し、その発見を共に面白がる存在でありたいと感じました。